

北海道サケネットワーク 会報

2008年6月 第2号

サケを「北海道の魚」に

サケマス保護事業の方向 - 平成19年ワークショップ要録

関連情報 さっぽろのサケ（豊平川さけ科学館）

第1回サケ学研究会，開催される

会員紹介 札幌市豊平川さけ科学館

第2回総会報告（平成19年11月17日）

平成20年行事予定



サケの語源は？

日本で一般に「サケ」と呼ばれている魚は、学問的には和名をシロザケ、学名を *Oncorhynchus keta* という。学名は生物の種を示す名前で、人なら姓に当たる属名と、名に当たる種小名の組み合わせで成り立っており、一つの種には一つの学名しかない。

サケの学名の前の方の *Oncorhynchus* は鉤状の吻（＝鼻曲がり）という意味のギリシャ語で、サケ属、つまり太平洋サケの仲間であることを示し、後の方の *keta* はシロザケを示すロシア語に由来する。ギンザケの学名 *Oncorhynchus kisutch* にもロシア語由来の *kisutch*（キズチ）という言葉が使われているが、それが転訛してケイジ（鮭児）という言葉ができてきたという（木村義一氏談）。なお、新日本動物図鑑（北隆館）にはケイジはギンザケであると書かれている。

シロザケという言葉は、身の紅いベニザケと区別するために生まれた新しい言葉であるが、「鮭」という文字は、奈良時代初めに編纂された風土記にも見られるように、古くから使われていた。この字が、当時、どう読まれていたのか知りようもないこともあってか、「サケ」という言葉の起源にはいろいろな説がある。

東日本では、サケのことを古くスケといったので、サケはその転訛だという説がある（平凡社・世界大百科事典）。広辞苑には、すけ【鮭】鮭(さけ)や鱒(ます)の大きいもの。新編常陸国誌三「鮭の大なるを佐介乃須介といひ、鱒の大なるを麻須乃須介といふ」とある。鮭という漢字は、もともとはフグを指す字であったということなので、日本語のスケという音を表現するために、鮭という字が当てられるようになったのかもしれない。

広辞苑は、サケの項で「アイヌ語サクイベ（夏の食物）からとも、サットカム（乾魚）からともいう」と説明し、サケの語源がアイヌ語であるとしている。アイヌ歳時記（萱野茂 著）には、マスのことをサキペ（サツ＝夏、イペ＝食べる）、サケのことをシエペ（シ＝本当に、エ＝食べる、ペ＝もの）と呼ぶと書かれている。縄文時代からサケは重要な食物であったこと、古くスケがサケやマスを表す言葉として使われていたことを考えると、サケの語源はおそらくは日本に広く分布していた古代の蝦夷の“サキペ”に相当する言葉に由来しており、それに鮭という漢字が当てられるようになったと考えたくなる。なお「鱒」という文字には高貴な人に献上する尊い魚という意味があるという。

蛇足であるが、英語では 1300 年代には *salmoun*, *salmonys*, *samoun*, *samon* とまちまちであった綴りが、1800 年代になって *salmon* に収束した。ダーウィンは“種の起源”の中で *salmon* を用いている。

サケを『北海道の魚』に

北海道のシンボルとして、木（エゾマツ）、花（ハマナス）、鳥（タンチョウヅル）が制定されていますが魚はありません。次の理由から、道民の魚として『サケ』を北海道のシンボルに制定することを望みます。

道民の生活文化に密接した歴史とロマン

単に食料にとどまらず、北の生活文化にも密接に受け継がれ、その母川回帰の生態は、多くの人々にロマンを与えています。

「豊かなふるさと」のシンボル

サケのふるさとは、豊かな自然生態系を持つ川や森です。それは、子ども達のかけがえのない「豊かなふるさと」でもあります。

優れた教材

サケは、生物教科の教材にとどまらず、環境問題、命の問題、食育、更には、産業、輸出入問題まで発展させることの出来る優れた教材です。

造る漁業・資源管理の模範生

120年の歴史に培われた人工ふ化技術は、今後の漁業資源の維持・管理のシンボルです。

温暖化防止運動に寄与

冷水性であるサケの保護は、温暖化防止に対する関心を喚起させます。

自然・健康食サケの普及と魚食習慣の回復

自然健康食材として道産秋サケの認識を広め、魚食習慣の回復に寄与します。

国際交流と青少年の育成

サケを通して築かれてきた北太平洋を共有する国々の国際協調が一層強調され、すでに定着している青少年のサケ学習国際交流の進展を促し、青少年育成への効果を高めます。

サケマス保護事業の方向 — 平成 19 年ワークショップ要録

2007 年 11 月 17 日 於 共済サロン

サブテーマ： 自然生態系におけるサケマスの役割
現行の保護事業と自然産卵の実態
自然産卵助長に関する課題

座 長： 浦野明央（北海道大学理学研究院 教授）
パネラー： 大熊一正（さけますセンター環境生態研究室 室長）
太田 昇（おびひろサケの会 会長）
大畑邦彦（北海道さけます事業協会 専務）
菊池基弘（千歳サケのふるさと館 学芸員）
前川光司（北海道大学北方圏フィールド科学センター 教授）

（発言内容が名前とともに HP にのることを好まないパネリストの方もおられるので、以下の要録では発言者をアルファベットで表した。）

座長挨拶

浦野： 昨年はパネルディスカッション形式で行い、主に専門家同士の論議となった。今回のテーマに関してはいろいろな立場の人が、様々な意見を持っているであろうと考え、情報交換し易いワークショップ形式にした。

パネラーの自己紹介

- A : さけ・ますふ化場がさけますセンターに改組され、目的も増殖から個体群維持のためのふ化放流に変更された。これまでの研究生活から得た知見をもとに話題提供する。
- B : サケという種を残すために、30 年前から市民と生産者の合意を目指した活動を展開してきた。千代田堰堤付近にふるさと公園を造った。川のサケ親魚については放流と追跡調査、海のサケについては老人会と連携しサケ料理を食べる会を催した。
- C : 北方生物圏フィールド科学センターは、森と海と農耕の研究を結び付けた機関。サケは中核の一つ。
- D : 増殖事業協会は、ふ化放流だけでなく自然環境との調和を目指している、また、小学校向けパンプレットの配布、卵を提供しサケの生活史を理解する手助けをする等、教育活動にも取り組んでいる。
- E : 当館は平成 6 年に開館、2 年前に道の駅に認定された水族館。来館者から、水車で魚を全部捕ってしまうのは可愛そう、との感想が寄せられる。

（情報提供）

E : 自然産卵に関する調査結果の紹介。ふるさと館の観察窓から観られるサケの産卵行動に関

する情報提供。自然産卵に適した河川環境の整備，地域住民への啓蒙，ふ化場産魚と自然産卵魚の関係の把握等が必要と考える。

浦野：豊平川の産卵床に関する情報はるか。

F：毎年ほぼ同じ場所にできる(中島公園横，東橋等)。

浦野：街中でもサケが産卵していることは興味深い。

浦野：サケの分布域は北日本から北極海に至る。溯上したサケは森に栄養を運ぶ重要な役割を果たす。ベーリング海で捕れるサケの出身地は，日本，ロシア，アラスカがそれぞれ約 1/3。ふ化場の数は人の多い地域に多い。特に日本は多いが，全て効率的に稼働しているか要検討。日本ではふ化放流が盛んだが，サケ類の輸入量も多い。

(本日のテーマについて意見交換)

C：サケマスと社会の関わりを研究。昭和 30 年代におけるサケと人の関係は良かった。最近では河川改修により，サケが増えマスが減った。人がサケマスに関わり過ぎ。自然産卵を増やせば，森を豊かにできるし，子供たちの教育にも良い。近年，サケと森の関わりに関する優れた多くの論文が出ている。

浦野：天塩川プロジェクトの情報はるか。

C：北大の上田先生が中心になって活動している。

浦野：最近の河川環境が，サケには良くサクラマスには悪くなったという事だが，釣り人から意見はあるか。

G：サケマス共に，放流事業なくして釣は楽しめない。若い人の中では，釣った魚をリリースする等，資源保護に対する意識改革が進んでいる。ヤマベの放流効果については疑問である。すぐに釣られ，親として帰って来ないのでは。研究者と釣り団体の関係が不透明なかで活動を模索している。

B：帯広では，千代田堰堤付近に造ったふるさと公園で人工物と自然を結びつけ，命を守ることを学ぶ活動を実践。例えば，落差と温度差を利用したエネルギーを使わない自然産卵床造り等。

浦野：サケは物質循環を通じて森と川を繋ぐ。自然環境を観るうえで良い素材。自然産卵や生まれた稚魚の川下りを観ることで，命を学ぶことができる。

D：人工ふ化放流を行わなければ，北海道のサケは絶滅していたかもしれない。環境が良かったといわれる 50 年前の資源量は推定 100 万尾程度。増殖事業を行った結果，現在の資源は 5,000 万尾。現在，サケが溯ぼれる河川はほとんどない。自然産卵だけでは資源の維持は難しく，遊魚者に向ける余裕はなくなる。しかし，環境造り，自然等の調和，遊魚者と産業の共存は大事。

浦野：遺伝子の話で，同じグループを掛け合わせる池産サクラマスの場合等，人の手が加わると遺伝的多様性が低下し，突発的な事態に対応できない魚になる可能性があるらしい。天然魚を残すことは，多様性を維持するために重要。また，いざという時に天然魚を使って資源回復を図れる。ふ化放流事業の結果，サケが昔に比べて変わった点はないか。

A：この点に関する指摘は以前からあるが，現在の事業は遺伝的多様性を維持する手法を取り

入れているし、モニタリングも継続している。オリジナルの遺伝子を残すことは大事だが、それらがどの程度保存されているのか情報が少ない。市民団体等と協力して明らかにしたい。

浦野：早期群や後期群の掛け合わせ、あるいは移植を行ったが失敗に終わっている。何か見解はあるか。

D：増殖事業は北海道の指導の下に行われている。現在は前期群と中期群を増やす取り組みを行っている。今後は後期群を増やす予定。また、突発的な事態に備えた事業展開も行っている。

浦野：Eさんから補足はあるか。

E：同じ場所や時期に産卵する群の、遺伝的特性までは調べていない。千歳川天然群の生き残りが、他の川にもいるかもしれない。耳石標識を活用し、明らかにしたい。

浦野：千歳川の後期群を利用して、冬でもギンケが捕れる群を作り出せるかもしれない。フロアーから意見はあるか。

H：現在のシロザケ資源は増殖事業なくしてあり得ない。河川環境を改善し、天然資源を現資源量に上乘せすることは可能かもしれない。例えば、千歳川の上流に溯らせる等の方法がある。その前提として、さけますセンターでは降下稚魚における天然魚とふ化場魚の割合を調査している。

浦野：サクラマスについてはどんな状況か。

A：サクラマスにも耳石標識をつけている。サクラマスはどこの河川でも自然産卵している。しかし、増殖事業の効果ははっきりしない。河川環境の悪化と資源低迷の悪循環。増殖事業だけでは資源の維持が困難。

浦野：Cさんから補足はあるか。

C：遺伝的多様性は大事なので、多くの親を使って人工授精させる必要があるが本当に多様性が保たれているか疑問。環境変化のダメージを受ける群と受けない群を残す必要がある。形質のばらつきを維持することも大事。例えば、サクラマスよりヤマメの方が適応度の高い遺伝子を多く持っている。大きい個体も小さい個体も大事。サケは増殖しないと今の資源を維持できない。その際、いろんな表現形質を混ぜ合わせるのが良い。しかし、そうすると進化の過程で排除された形質が復活する恐れもある。だから自然産卵を残すことが大事。

浦野：遺伝的多様性が大事であることは確かなようだ。良い環境を作ることが大切。木村さんから意見はあるか。

木村：感想になるが、120年余りになるふ化事業の歴史のなかで、資源が増えたのは昭和47年以降。識者からはふ化放流が悪いといわれたが、増殖事業がなければサケはいなくなっていたかもしれない。人間生活を進めるうえでも参考になる話を聞いた。

浦野：河川環境が悪化しているとの話が続いた。状況はどうか。カムバックサーモン運動に関わってきたIさんから意見はあるか。

I：カムバックサーモン運動は札幌サケの会から始まった。私もテレビ局の関係者として、長年関わってきた。当初は相手にされなかったが、3年目に親が帰って来たのを観て驚き、感動した。その後、スポンサーも多くなり順調だったが、放せば帰ってくるのが定着し、一定の役割を終えた。

浦野： マスコミの影響力は強い。千歳川を溯るサケを長年に亘って調べてきたが、江別の製紙工場の排水を潜り抜けて母川を目指すことに驚く。川の漁師さんの話によると、開発局が行った河川改修に問題がありそうだが、下覧会から意見はあるか。

J： 河川法で人命が大事にされてきたが、最近では開発局も魚の環境に配慮している。

浦野： Eさんから意見はあるか。

E： ふるさと館は、観察窓から川底を覗いているだけでモニタリングになる。最近の10年間で透明度が悪くなってきた。台風で上流域の木が倒されてから、その傾向が強まった。また、外来魚が増えた代わりにニジマスが減った。観察窓の前で自然産卵された卵には死卵が多い。砂利の間の泥が原因か。

浦野： 豊平川ではどうか。

F： 最近のことしか判らないが、特に悪化はしていないようだ。良い環境が維持されている。

浦野： 地で子供にサケを見せる活動が活発に行われている。しかし、サケを覗いた子供がサケの研究者になっていない。サケの研究者を目指す子供が増えるような、教育事業が発展することを願ってこの会をしめたい。幅広く意見を聴けたことに感謝する。

木村： サケマス増殖事業は、自然から学ぶことで成果をあげた。これからは更なる自然に学び資源保護の手法を高める時代。一方、それに依存している社会がある。学問的な興味だけでなく、現在の事業にどのような形で自然産卵助長を組み入れていくかが課題。

座長、パネラー、参加者に感謝する。

ホームページの開設とMLの整備

インターネット上での活動の充実に備えてのホームページの開設とMLの整備は、本会設立時からの懸案事項でしたが、この度、いずれについてもある程度の進展をみる事ができました。名称を「北海道サケネットワーク」としてとりあえず開設したホームページのアドレス(URL)は、<http://www.justmystage.com/home/salmonet/> としました。

なお、ホームページは会員以外の多くの人にもアクセスできますので、会員の間だけに留めておきたい情報交換はMLを通して行いたいと考えています。メールアドレスを事務局に登録されていても、まだYahoo上のMLグループ「[sakenet](#)」にメンバーの登録をされていない方には、招待状をメールでお送りします。ホームページ上にも、MLの入り口につながる会員限定のリンクを設けました。まだMLグループに登録されていない会員の方はp.12に記載した要領にしたがいIDとパスワードを登録していただけますか。

MLグループの登録について不明なことがありましたら、浦野 (aurano@s6.dion.ne.jp)までお問い合わせ下さい。

さっぽろのサケはいま



サケの観察会

現在札幌では市内の7河川でサケが遡上し、3河川（豊平川、琴似発寒川、星置川）では毎年産卵が見られます。都市河川でサケの遡上・産卵が見られるのは世界的に見てもめずらしいことです。



住宅地の横でサケが産卵



赤丸内の川底の色が変わっているところがサケの産卵床



サケが上れない人工の段差（床止め）



撮影：木幡幸雄

サケの死体は川の生き物に分解されて川の栄養になる

毎年産卵する場所
過去に産卵したことがある場所
産卵のポイント：湧水と卵を埋める砂利があること



さっぽろのサケ、未来へ

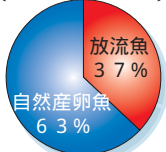
豊平川ではカムバック・サーモン運動をきっかけに、1979年以降毎年市民の手からサケの稚魚が放流されています。その成果として1985年からは、川で自然産卵するサケも毎年たくさん確認されています。

さけ科学館では、自然産卵するサケが定着できているかを明らかにするために、2004年からサケの標識放流調査を行っています。2011年には自然産卵魚と放流魚がどのくらいの割合で豊平川に戻ってきているのかがわかります。



札幌の川で産卵するサケ

2006・2007年度
自然産卵魚と放流魚の割合
(満2歳・満3歳)



独立行政法人水産総合研究センター
さけますセンターとの共同調査（現在までの結果）



放流する稚魚のあぶらびれを切ると、ひれのないサケが戻って来るので、放流魚の目印になります。



市民に放流されるサケ稚魚

豊平川にサケの姿を復活させたカムバック・サーモン運動から30年たち、サケの遡上は毎年当たり前の出来事になっています。しかし、豊平川のサケは転換期を迎えています。

「放流魚と自然産卵魚を選択する時期がきます。」

「豊平川のサケが自然産卵でじゅうぶん保たれるか見極める必要があります。」

豊平川のサケの将来を、もう一度みんなで一緒に考えてください！

第 1 回サケ学研究会, 開催される

昨年, 9 月 24 日 (月), 日本水産学会大会に先立って, 函館の北海道大学水産学部で第 1 回サケ学研究会が開催されました. この研究会はサケ科魚類の科学に関する学術研究・情報の交流と普及を図り, その学術研究の発展に寄与することを目的として, 2006 年 12 月に設立されたものです. 主な活動としては (1) サケ学の研究発表会や学術講演会の開催, (2) サケ学に関するホームページの開設 (<http://www.geocities.jp/sakekenkyukai/index.html>) と情報交換, (3) サケ学のフィールド・サイエンスとボランティア活動の実施, (4) サケ学に関する市民との集いなどが謳われています. サケに興味のある人, わが国のサケを守り育てたい人, サケについて研究をしたい人, サケに関する情報を交換したい人の入会を求めており, 本ネットワークとの接点も少なくないと思われます. そこで, サケ・マス研究者とその研究についての現時点での情報ということで, 当日のプログラムを紹介しておきます.

基調講演 『回遊の生態生理学』 -----浦野 明央(北海道大学大学院 理学研究院)

遺伝・魚病

- ・サケ・マス類の遺伝学的研究アップデート -----°阿部周一(北大院水)
- ・夏季-秋季ベーリング海および冬季北太平洋に生息するサケの地理的起源
-----°佐藤俊平(水研セさけますセ)・守屋彰悟(日清紡)・福若雅章・東屋知範(水研セ北水研)・
浦野明央(北大院理)・浦和茂彦(水研セさけますセ)
- ・遊楽部川シロザケ(*Oncorhynchus keta*)の遡上時期による遺伝的分化
-----°横谷亮太・工藤秀明・阿部周一(北大院水)・北田修一(海洋大)・帰山雅秀(北大院水)
- ・サケ科魚類採卵親魚の魚類病原ウイルス保有状況-1976~2006年までの結果と受精卵消毒の有効性-
-----°吉水 守・笠井久会(北大院水)・野村哲一(養殖研札幌)
- ・サケ科魚類の抗体検査法について -IHN を例に-
-----°金 尉植・西澤豊彦・吉水 守(北大院水)・望月満美子(静岡水試)

生態

- ・サケ生態学研究の最近の動向 -----°帰山雅秀(北大院水)
- ・尻別川流域の魚道整備から7年ないし14年を経たサクラマスの分布拡大とその課題
-----°河村 博(道孵化場)・松枝直一(道後志支庁)
- ・知床半島に生息するサクラマスとオシヨロコマの降下生態について
-----°竹内勝巳(道孵化場)・°永田光博・春日井潔・虎尾 充・村上 豊・
佐々木義隆(道孵化場道東)・宮腰靖之(道孵化場)
- ・低気圧通過が母川回帰中のサケの行動に及ぼす影響
-----°北川貴士・兵藤 晋・佐藤克文・渡辺佑基(東大海洋研)
- ・戸切地川におけるブラウントラウト(*Salmo trutta*)の移動生態に関する研究
---°小林秀策(北大院環)・新井崇臣(東大海洋研)・本多健太郎(北大院環)・宮下和士(北大FSC)
- ・胃内容物から評価した2006年夏季, 北太平洋におけるサケ属魚類の摂餌行動
-----°三尾郁恵・工藤秀明(北大院水)・亀井佳彦(北大水)・帰山雅秀(北大院水)

生理・その他

- ・サケの母川回帰機構に関する生理学的研究の現状と将来展望 -----°上田 宏(北大FSC)
- ・心拍ロガーを用いたシロザケ親魚遡上時の遊泳行動解析
-----°牧口祐也(北大院環境)・永田鎮也・村田秀樹(大日本住友製薬)・上田 宏(北大FSC)
- ・サケ科魚類の卵黄形成 -多型ピテロジェニンとコリオジェニン-
-----°藤田敏明・望月麻智子・天野春菜・平松尚志・東藤 孝・原 彰彦(北大院水)
- ・サクラマスの雌から放出され雄を誘引する性フェロモン -----°山家秀信(東農大生物産業)
- ・サケ学(Salmon Science)に関する考察 -----°清水宗敬(北大院水)

冒頭にも書きましたようにサケ学研究会は、広くサケに興味のある人、わが国のサケを守り育てたい人、サケについて研究をしたい人、サケに関する情報を交換したい人の入会を求めています。現在のところ年会費は 500 円だそうです。興味ある方、詳しくこの研究会について知りたい方は、ホームページ <http://www.geocities.jp/sakekenkyukai/index.html> をご覧になって下さい。

なお、現在、サケ学研究会の運営は下記の役員の方によって進められています。

会長：阿部周一（北海道大学大学院水産科学研究院 教授）

遺伝学部門代表：阿部周一（北海道大学大学院水産科学研究院 教授）

生態学部門代表：帰山雅秀（北海道大学大学院水産科学研究院 教授）

生理学部門代表：上田 宏（北海道大学フィールド科学センター 教授）

事務局長：工藤秀明（北海道大学大学院水産科学研究院 助教授）

また、事務局の所在は次の通りです。

サケ学研究会事務局

北海道大学大学院水産科学研究院（工藤秀明 気付）

〒041-8611 函館市港町3-1-1

TEL&FAX: 0138-40-5602

E-mail: hidea-k@fish.hokudai.ac.jp

HP: <http://www.geocities.jp/sakekenkyukai>

札幌市豊平川さけ科学館の紹介

札幌市豊平川さけ科学館

カムバックサーモン運動によって、再び豊平川にサケが見られるようになり、市民からは「サケの放流を続けるために市民のふ化場を」、また、「サケについて学習することができる施設を」といった声が高まりました。その声を受けて、1984年に札幌市豊平川さけ科学館（以下さけ科学館）が開館しました。開館以来、さけ科学館ではふ化放流事業を続けており、毎年、豊平川にはサケが戻ってきています。現在では、サケの仲間や豊平川の淡水魚などを飼育展示し、サケや豊平川に関する様々な情報も発信しています。



研究活動 豊平川に遡上したサケを捕まえて、年齢や大きさを調べたり、産卵したサケの卵が無事に育っているかを調べています。

札幌市豊平川さけ科学館

札幌市南区真駒内公園2-1
tel:011-582-7555

開館時間	9時15分～16時45分	
入館料	無料	
休館日	毎週月曜日	
駐車場	平日	無料
	土・日・祝日	有料(普通車300円)

公共交通機関

札幌駅から約35分
地下鉄南北線真駒内駅下車

↓
じょうつバス/
[南90] [南95] [南96] [南97]
[南98] [環96] 系統のいずれか乗車、
「真駒内競技場前」停留所下車、徒歩4分



2尾のサケ稚魚が向かい合ったデザインの建物。

さけ科学館展示室



展示ホール

サケの生態をパネルや模型、ビデオで展示しています。産卵行動は、本物のサケのはく製が使われていて見応えがあります。また、実物大のサケ模型で重さや大きさが体験できます。



飼育展示室

サケの仲間の稚魚を約20種類、水そうで展示しています。日本では珍しい外国の種類や、イトウの分布南限にあたる尻別川のイトウ(オビラメ)など絶滅に瀕した希少種を見ることができます。



地下観察室

7面に分かれた大きな水そうがあり、水族館のように横から魚を見ることができます。一年を通してサクラマスやアメマス、ニジマスなどサケの仲間や、秋には親ザケ、春には稚魚の群泳を見ることができます。



さかな館

さかな館では、豊平川の魚や、エビ・カニ、カエルなど、約30種類の水辺の身近な生きものを展示しています。



トウヨシノボリ

さけ科学館 季節の見どころと実習行事



7月

さかなウォッチング
川に入って、網を使って魚とります。いろいろな魚がとれて楽しい実習です。



10月～11月

採卵実習(さいらんじっしゅう)
サケの人工受精作業を体験します。受精させた卵は、春まで育てて放流します。



サーモン・ウォッチング
川に帰ってきたサケを観察します。産卵の様子や、親ザケをじっくり観察できます。



12月

サケ皮で靴づくり
川に帰ってきたサケの皮で靴や小物作りを体験します。



1月上旬～5月5日



サケ稚魚の群泳

約1万尾のサケの稚魚が、水そうの中で群れをなして泳ぐ様子を見ることができます。キラキラと光ってとてもきれいです。

5月4・5日



サケ稚魚体験放流

サケの稚魚の放流ができます。放流した稚魚は、3年後の秋に豊平川に帰ってきます。

9月下旬～12月上旬



親ザケ

川に帰ってきた親ザケの迫力ある姿を、間近に観察できます。オスとメスの違いもよくわかります。

9月中旬～11月下旬



サケの産卵行動

屋外観察池でサケの産卵行動を展示しています。メスが穴を掘る様子や、オス同士のけんか、産卵の瞬間(1日に1～2回)などが観察できます。

10月中旬～1月中旬



サケの発眼卵

目があるサケの卵(発眼卵)を展示します。卵の中で目が動く様子などもよく観察できます。

11月中旬～2月中旬



サケの赤ちゃん

おなかに赤い栄養の袋を付けた、かわいさのサケの赤ちゃんです。よく見ると、心臓が動いている様子も観察できます。

北海道サケネットワーク '07 年度総会報告

07. 11. 17 13:30～ 於 きょうさいサロン

- ・ 浦野代表挨拶：

今年度は限られた予算のなか、会報1号を発刊できた。次年度は、印刷物だけでなくインターネットを活用してネットワークの名にふさわしい事業展開を図るとともに、より広範な人々に活動内容を紹介していきたい。

- ・ 議長選出：事務局長が浦野代表に依頼していることを紹介。 ☆ 承認

- ・ 会計報告（前鼻）：2006年度は主たる活動がなかったため、収入のみ。通信事務費を除き次年度へ繰越。2007年度の収入と支出状況の説明。サケ会議負担金はサーモン協会から拠出している現状等を説明。 ☆ 承認

- ・ 同問題に関する説明と対策案（木村）：会計年度と総会時期のずれから生じる問題の内容を役員会議事録どおり説明。2006年度を見なし年度とし、2007年度の予算を一括して扱うこと、監査も両年度を合わせた形でやり直すことを提案 ☆ 承認

- ・ 事業報告（木村）：2006年3月31日から準備に取り掛かり、11月にネットワークを設立、同時にサケ会議としてパネルディスカッションを行った経緯を、2007年4月に会報創刊号発刊を経過報告。 ☆ 承認

- ・ 2008年度の活動（木村&議長）：メールを活用した情報機能の向上、会報2号の発行、携帯電話でも観られるホームページの作成、インターネットを使った経費削減等、情報交換機能向上を目指す方針を提案。 ☆ 承認

- ・ 2008年度収支計画（前鼻）：会費収入17団体となる収支計画を説明（但し、事項の提案があるため、承認を保留）

- ・ 会費納入状況：未納が数団体ある。06年分は07年に含まれるとの思いが見受けられる。06年度は事業、会計とも実績が乏しいので07年度と見なし06年会費は免除とすることを提案。 ☆ 議決

- ・ 会費の取り扱い：3,000円を超えて納入頂いた会費があり、現行の会則「会費3000円」を「3000円以上」に改正し、整合性を図る。 ☆ 議決

- ・ 次期総会開催地について（おびひろサケの会、太田）：2008年10月17日に帯広の売買川の千代田堰堤で、魚道、川、自然産卵等を観察する会、および海の魚を食べ川の魚を放流する行事を予定。サケネットワーク主催、おびひろサケの会主管として総会とサケ会議を共同開催したい。（議長から、会報などで会員の意見も徴し現地と連携して計画する）

☆ 承認

- ・ サケを「北海道の魚」に制定することについて（事務局、木村）

北海道のシンボルとして木（エゾマツ）、花（ハマナス）、鳥（タンチョウヅル）はあるが魚はない。豊かなふるさとのシンボルとして、サケの制定に向けた活動を決議したい。

☆ 議決

- ・ 閉会

2008 年度の事業について

前ページの昨年度の総会報告にあるように、本年度の主要な事業は次の3つです。

1. **インターネットを活用する：** メールを活用した情報機能の向上、会報2号の発行、携帯電話でも観られるホームページの作成、インターネットを使った経費削減等、情報交換機能向上を目指す方針を提案し、それが承認されました。
2. **総会をとがちで開催する：** 帯広の売買川の千代田堰堤で、魚道、川、自然産卵等を観察する会、および海の魚を食べ川の魚を放流する行事が予定されています。それに合わせて、サケネットワーク主催、おびひろサケの会主管として総会とサケ会議を共同で開催したい、と提案し了承されました。
3. **サケを「北海道の魚」に制定するための運動：** 北海道のシンボルとして木（エゾマツ）、花（ハマナス）、鳥（タンチョウヅル）は制定されているが、魚はない。そのため、豊かなふるさとのシンボルとしてサケを北海道の魚に制定するよう活動することが決議されました。その第一歩として作成されたキャンペーンを最初のページに掲載しました。

1. インターネットの活用

「ホームページの開設とMLの整備」と題した囲み記事（p.5）にもありますように、「北海道サケネットワーク」という名前でホームページのβ版を立ち上げ、MLを通して会員の皆様の御意見を伺いました。いただいたいくつかのコメントをもとに一般公開して存在をアピールしてもよいバージョンを作成すべく、改訂作業を進めています。

なお、2007年度の総会でお認めいただいた趣旨に沿い、この会報もネットワークを介して送らせていただきました。また会報などの会員限定版はYahoo ML「sakenet」のブリーフケースにおいてあります。MLグループへの登録や利用については次ページを御覧ください。

2. 総会をとがちで

すでにニュース3号でお知らせしましたように、今年度総会のとがち開催について、5月15日、浦野代表、寺島幹事、木村事務局長の3名が帯広を訪ね、とがち・帯広サケの会太田会長と伊藤事務局長の案内で現地見聞をしてきました。その結果、見応えある施設があり河川環境も良いことから、10月11日（土）～12日（日）の日程でとがち開催を決めました。今後は、具体的な計画を立て、とがち・帯広サケの会のお世話を頂きながら準備を進めることとなります。

なお、総会とその前後の行事計画を固めるためにお願いしてありますアンケートの回答を早い機会に事務局宛お送り下さい。

とがち・帯広あるいは総会の会場に予定されている十勝川温泉のホテル大平原の様子についてはホームページ <http://www.justmystage.com/home/salmonet/> を御覧ください。

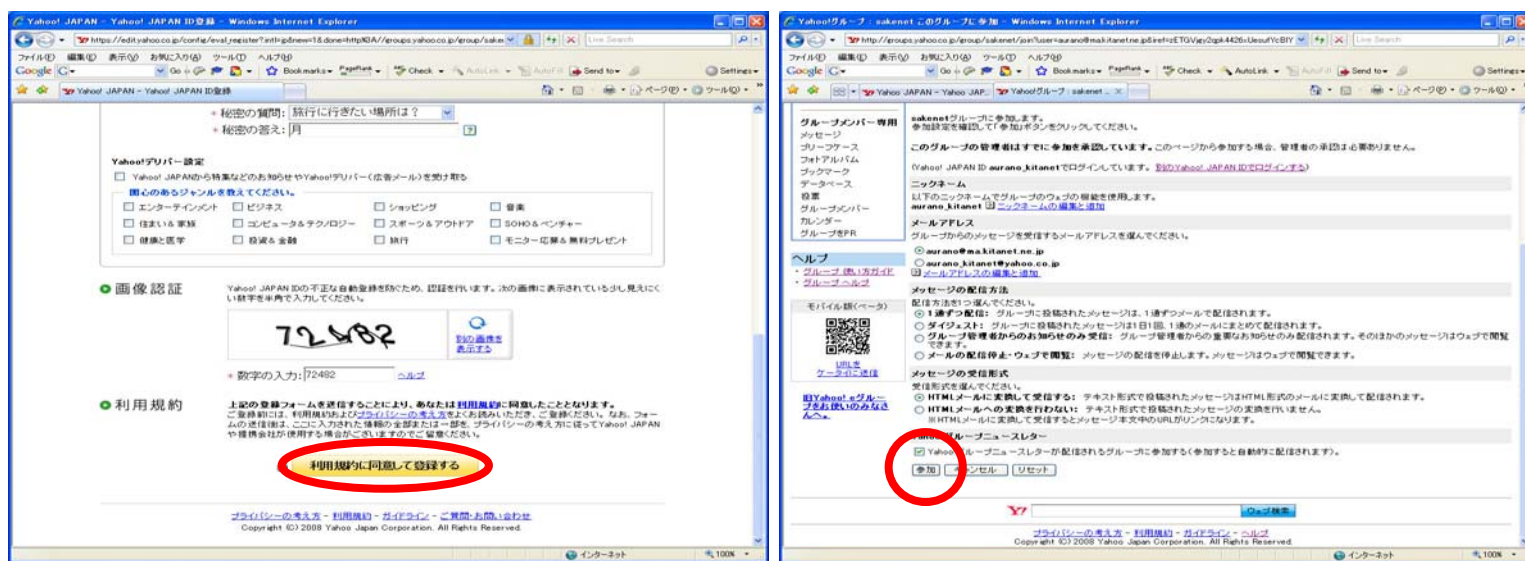
Yahoo MLグループ「sakenet」の利用について

MLグループへの登録から利用まで

まだ登録されていない方に sakenet グループへの招待メール（文字化けしていたらコードを EUC にして下さい）をお送りしますので、『このグループに参加』をクリックして下さい。そうすると Yahoo グループにつながり、下記・左側のようなページが表示されます。ここで左下の『次へ』をクリックすると、ID とパスワードの入力画面（下右図）が現れますので、『Yahoo! JAPAN ID を取得』をクリックします。



ここで表示された ID 登録ページで、指示にしたがい必要事項を入力していきます。メールアドレスは普段お使いのものを登録して下さい（Yahoo のアドレスを使う必要はありません）。最後まで入力したら『利用規約に同意して登録する』をクリックして下さい（下左図）。そうすると ID 登録確認メールが Yahoo から届くので、確認した旨の返信をします。これによりブラウザへのページが下右図のものに替わりますので、いくつかの項目をチェックし、左下の『参加』をクリックします。これで参加完了です。sakenet のページに戻して下さい。



ログアウト後、また ML に入るには、<http://groups.yahoo.co.jp/group/sakenet/> から右上のログイン画面を出して ID とパスワードを入力します。Yahoo グループのトップページが現れたら、『My グループ』の所にある『sakenet』をクリックして下さい。

2008-2009 行事予定表

年・月	会議・講演会・講習会	フィールドワーク
2008 6	6/28 森林国際シンポジウム (大雪と石狩の自然を守る会)	6/21 土曜体験 無料エサやり体験 6/28 土曜体験 無料エサやり体験 (さけ科学館) 6/23-27 森林生態系保護ネット・伐採地現地視察 (大雪と石狩の自然を守る会)
	7/31 または 8/1 夏休み親子サケ学習 (サーモン協会)	7/5 土曜体験 さかなの飼い方を学ぼう！ 7/6 さかなウォッチング 北の沢川 7/12 土曜体験 川のエビ・カニと水遊びしよう！ 7/13 さかなウォッチング 星置川 7/19 土曜体験 無料エサやり体験 7/20 さかなウォッチング 琴似発寒川 7/26 土曜体験 無料エサやり体験 (さけ科学館)
8	8/1 さけます関係研究開発等推進特別部会 (さけますセンター) 8/8-10 GFA 石狩川プロジェクト (大雪ダム ～石狩川河口) (大雪と石狩の自然を守る会)	8/2 土曜体験 無料エサやり体験 8/3 公開さかな調査 8/9 土曜体験 夏のカエルとあそぼう！ 8/16 土曜体験 無料エサやり体験 8/23 土曜体験 無料エサやり体験 8/30 土曜体験 無料エサやり体験 (さけ科学館)
	9/21 さっぽろサケフェスタ 2008 (さけ科学館) 9/13-14 第 21 回日本の森と自然を守る全国集 会 (大雪と石狩の自然を守る会) 9 月末 第 4 回公開市民講座 (サーモン協会)	9/21 大規模林道調査 9/23 石狩川湧水調査 9/28 サケを迎える儀式ーカムイチェップ・ノミ (大雪と石狩の自然を守る会) 9/28 サケの採卵解剖実習 (さけ科学館)
10	総合講座「サケ学入門」開講 (北大教養) 10/11-12 北海道サケ会議 (サーモン協会) 北海道サケネットワーク総会 (帯広) 10/30 市民学習会「ちゃらんけ」 (大雪と石狩の自然を守る会) 日程未定 会員交流会 豊平川畔清掃とサケの 産卵床観察 (サーモン協会)	10/4 土曜体験 サケ・タッチ・プール 10/5 サーモン・ウォッチング 豊平川 10/11 土曜体験 サケの人工受精体験 10/12 琴似発寒川サケ観察会 10/18 土曜体験 サケ・タッチ・プール 10/19 サーモン・ウォッチング 星置川 10/25 土曜体験 サケの人工受精体験 10/26 琴似発寒川サケ観察会 (さけ科学館)
	上旬 会員交流懇親会 (サーモン協会) 11/15 第 10 回大雪山フォーラム (大雪と石狩の自然を守る会)	11/1 土曜体験 サケ・タッチ・プール 11/2 琴似発寒川サケ観察会 11/8 土曜体験 サケの人工受精体験 11/9 サケの採卵解剖実習 11/15 土曜体験 サケ・タッチ・プール 11/22 サケの人工受精体験 (さけ科学館)
12	12/7 さけゼミナール① (大雪と石狩の自然を守る会)	12/7 サケ皮で靴作り (皮はぎ) 12/21 サケ皮で靴作り (加工) (さけ科学館)
2009 1	1/25 さけゼミナール② (大雪と石狩の自然を守る会)	
2		
3	3-26-4/3 カナダ国際交流派遣 (サーモン協会)	

北海道サケネットワーク会員

北海道立水産孵化場	水産総合研究センターさけますセンター	千歳サケのふるさと館	
標津サーモン科学館	札幌市豊平川さけ科学館	北海道大学理学研究院	
北海道大学北方生物圏 FSC	札幌市立東白石小学校	札幌市環境局みどりの推進部	
えにわ市民サケの会	大雪と石狩の自然を守る会	北海道サーモン協会	
川の駅十勝川運営委員会(とかち・帯広サケの会)	丸水札幌中央水産(株)		
高橋水産(株)	佐藤水産(株)	日本釣振興会北海道支部	石狩川下覧権
網走漁業協同組合	長万部漁業協同組合	盃漁業協同組合	(財)十勝エコロジーパーク財団
十勝川自然再生協議会準備会サケ分科会	標津漁業協同組合	泊村漁業協同組合	
安平町マチおこし研究会			

北海道サケネットワーク役員

代 表	浦野 明央	北海道大学・名誉教授
副 代 表	太田 昇	とかち・帯広サケの会・会長
事務局長	木村 義一	北海道サーモン協会・代表
幹 事	寺島 一夫	大雪と石狩の自然を守る会・代表
幹 事	市村 政樹	標津サーモン科学館・学芸員
幹 事	山道 正克	日本釣振興会北海道地区支部・副支部長
監 査	鼻輪 憲和	恵庭市民サケの会・会長
監 査	石黒 武彦	水産総合研究センターさけますセンター・技術開発室長

編集後記

編集子の個人的事情で会報第2号の発行が大幅に遅れたことをまずお詫びします。しばらく前ですが、北大におられたアイヌ語研究者の村崎さんという方から「サケ」という言葉はもともとはアイヌ語に起源があるとお聞きし、それがたいへん気になっていたもので、とりあえず納得のいくところまで調べ、原稿にしてみました。付け焼き刃の感はまだありません。読者諸兄の御存知のことをお教えいただければ幸いです。(編集子)

サケネットワーク会報 No. 2

発行日 2008年6月20日

編集・発行 浦野明央 (aurano@s6.dion.ne.jp)

事務局 北海道サーモン協会 木村義一

〒004-0022 札幌市厚別区厚別南

7丁目18-19

Tel/Fax: 011-894-0081

e-Mail: giichiketa@yahoo.co.jp

<http://www.justmystage.com/home/salmonet/>
